

# 郡山看護専門学校【看護学科】 令和5年度 学校評価

【評価方法】 5点満点（5 良い / 4 やや良い / 3 普通 / 2 やや不十分 / 1 不十分）

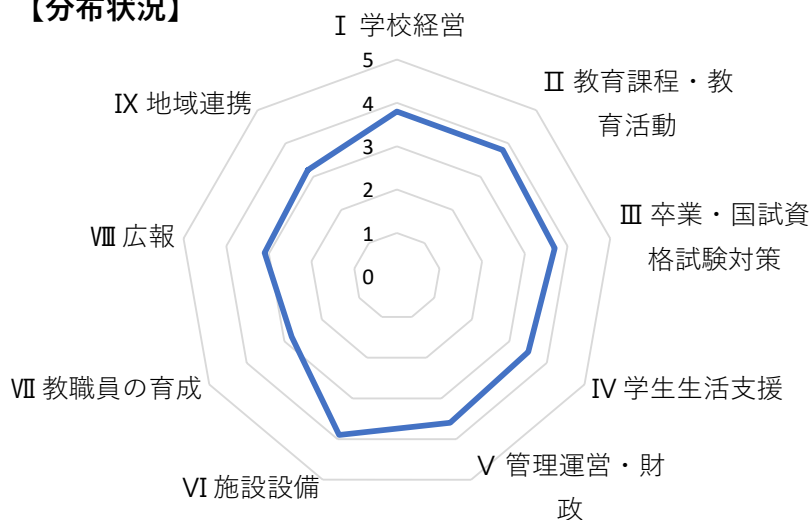
全体評価は「3.5」と、昨年度の「3.6」からほぼ横ばいとなった。項目別では「学校経営」が0.2ポイント、「地域連携」が0.4ポイント、「学生生活支援」が0.1ポイント上昇した反面、コロナ禍における情報発信の変化を受け「広報」は0.7ポイント、縮小せざるを得なかった「教職員の育成」は0.4ポイント減の2点台など、全体として下がる傾向がみられた。

なお、本校独自の奨学給付金や成績優秀者表彰の創設、高等教育修学支援新制度確認校の認定など、学生支援を中心とした「魅力ある学校づくり」の取り組みにより、今年度の入学者数は増加しており、全体として運営は安定している。

## 1 全体評価

I 学校経営	3.8
II 教育課程・教育活動	3.8
III 卒業・国試資格試験対策	3.7
IV 学生生活支援	3.5
V 管理運営・財政	3.6
VI 施設設備	3.9
VII 教職員の育成	2.8
VIII 広報	3.1
IX 地域連携	3.2
平均	3.5

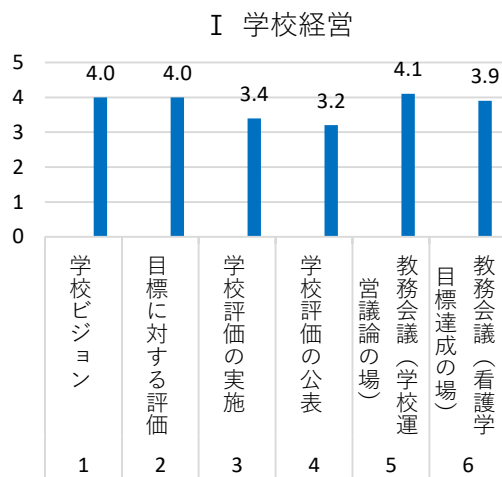
【分布状況】



## 2 各分野の評価

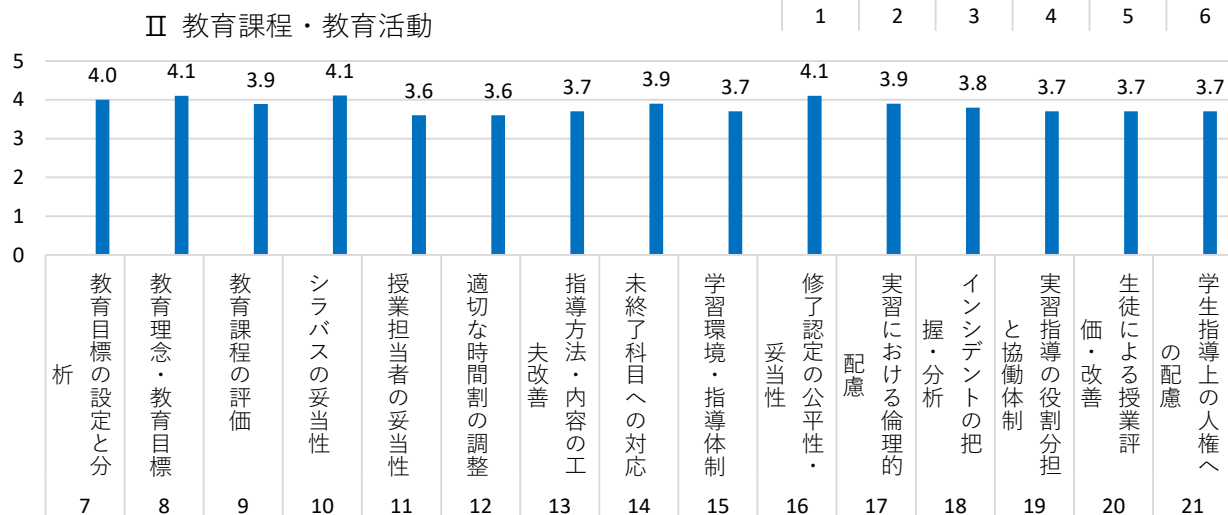
### I 学校経営

本校「教育理念」「教育目的」「教育目標」等と併せ「年度目標」や「事業計画」を明確にすることで、本校の経営方針等への理解や共有化が図られ、会議等を通じた運営参画も進んでいる。



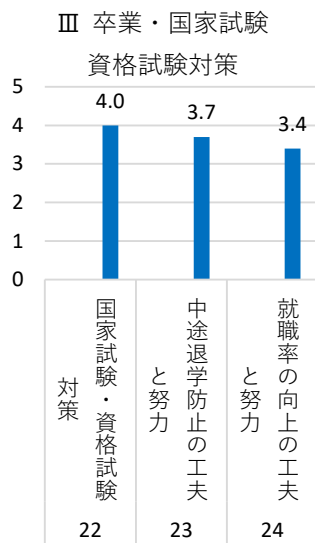
### II 教育課程・教育活動

通常の教育指導に努めるとともに、新カリキュラムに新たに加わった「地域・在宅看護論」においては各機関の協力によるフィールドワークの実施など指導内容の充実に努めた。



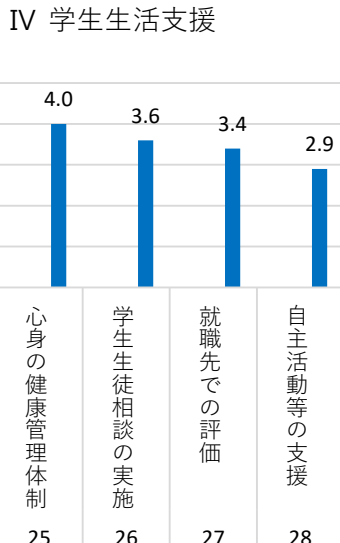
### III 卒業・国家試験資格試験対策

専任教員及び依頼講師による手厚い国試対策、業者模試の活用などにより、看護師資格国家試験の合格率は95%と全国93.2%を上回った。



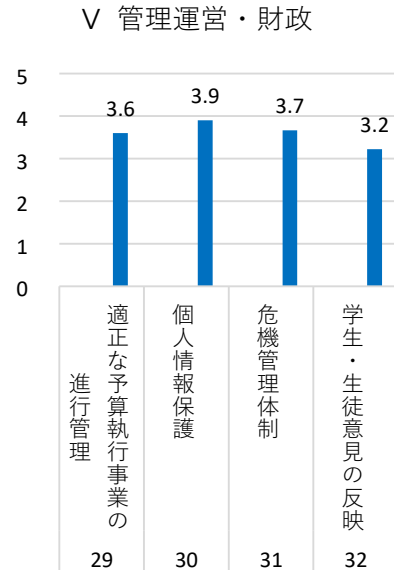
### IV 学生生活支援

相談、個別面談、カウンセリング等を随時実施し生活指導に取り組むとともに、既卒者就職先からのヒアリングを行っている。



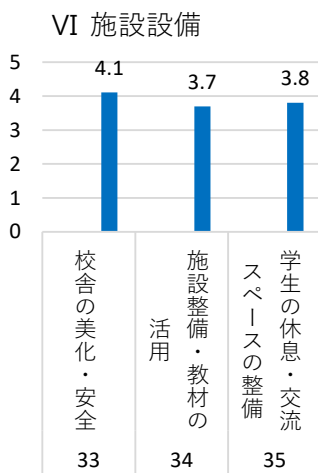
### V 管理運営・財政

事業計画や収支予算の「見える化」により、学校運営に対する教職員の理解が得られたことで事業効率が向上した。



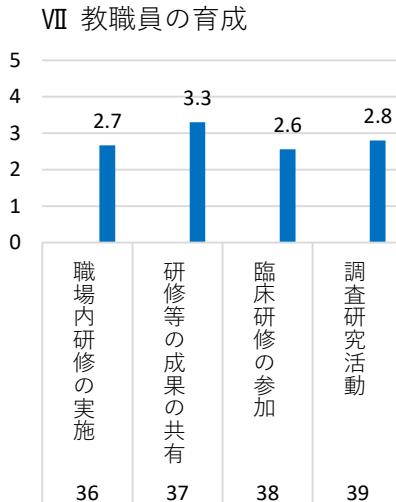
### VI 施設設備

法定点検等適正な施設管理により安全を確保するとともに、敷地内美化やスペース活用により学内環境の改善に取り組む。



### VII 教職員の育成

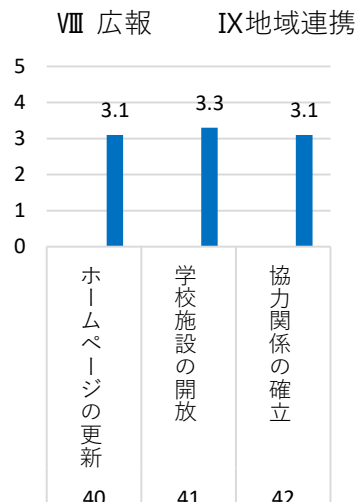
コロナ対応、カリキュラム改定作業の増加等により研修等への参加が激減した。次年度においては積極的な人材育成に取り組みたい。



### VIII 広報

ホームページについては令和6年度にリニューアル予定。

施設・設備の貸出しや合同防災訓練の実施など地域連携は進んでいる。



## 3 今後に向けて

「教育課程・教育活動」においては、新カリキュラムに新たに加わった「地域・在宅看護論」の実施にあたり各機関の協力を得ているフィールドワークを通し、看護における「地域を知る」ことの重要性を伝えていきたい。

「教職員の育成」については、コロナ禍が明けたこともあり学外研修や学会等への参加機会を積極的に設ける予定。

今後は、急速に進むことが予想される社会のDX化やデジタル世代の学生に対応した「学習環境の整備」（施設、設備、教材等）が求められることから、正確な情報収集をした上で、適切かつ効果的な対策を講じることとしたい。

なお、全国的に「看護職」を目指す方が減っていることから、入学生の確保に向け根本的な検討が必要である。

# 郡山看護専門学校【看護学科】令和5年度 学校関係者評価

## 〔管理運営について〕

### I 学校経営 / V 管理運営・財政 / VI 施設管理 / VIII 広報 / IX 地域連携

- 学校経営については、年度目標や事業計画、収支予算とその執行状況などの「見える化」を図るとともに、継続して新規事業に取り組むなど「魅力ある学校づくり」に努めたことで、以前と比較して効果的かつ効率的な運営がなされている。

また、昨年度「高等教育修学支援新制度」確認校として福島県の承認を受け、今年度から授業料減免申請が可能となったことで、実際に当該制度を利用し入学した者もいる。学生が経済的バックアップのもと安心して学べる体制を整備したことは評価できる。

さらに、本校独自の給付金制度、福祉事業所との連携による校内販売及び助成、SDGsへの取り組みとしての食料品配布など新たな事業に着手したことで、学校経営全体としての評価は「3.8」と、昨年度と比較して0.2ポイントアップしたが、事業効率の向上には目的理解が重要であることから関係者及び教職員等への周知に務めること。

- 管理運営・財政については、学生数の減少により収入は減少したものの、支出を見直すことで概ね適正な予算執行となっている。今後も、入学生確保と経費削減に取り組むこと。なお、郡山医師会員及び病院等への入学生募集の呼びかけや寄附依頼については、入学生の掘り起こしや増収に繋がっており、財源確保の取り組みとして評価できることから、今後においても継続して実施すること。
- 施設管理については、建設後10年が経過したことで法定点検を含む各種点検・整備費、さらに原油高騰による光熱水料の引き上げなど諸経費が増加しており、必要な対策を講じるとともに unnecessary 支出の更なる削減に取り組むこと。ただし、必要不可欠な安全対策については確実に実施するとともに、近年頻発している自然災害や各種事件・事故に対応できる危機管理体制については常に構築しておくこと。
- 広報については、学校自体の周知はもちろんのこと、「入学生の確保」にとって非常に重要な手法であり、さらに「郡山医師会」の周知にも繋がる多面的な効果も期待できることから、継続して取り組むこと。ただし、IT化が進む近年の社会情勢に鑑み、郡山医師会と協力し情報発信に係るDX化を早急に進めること。
- 地域連携については、地域医療機関等における求人情報や奨学金情報の提供など、就業に繋げる体制づくりに取り組むとともに、郡山市医療介護病院との合同防災訓練の実施や施設・機材等の貸し出しなどに取り組んでおり、今後の更なる展開を期待したい。

## 〔教育活動について〕

### II 教育課程・教育活動 / III 卒業・国家試験資格試験対策 / IV 学生生活支援 / VII 教職員の育成

- 教育課程・教育活動については、今年度から開始された新カリキュラムに基づき学習指導にあたるとともに、個々の学生の力に合わせた指導方法や生活指導に取り組んでいる。今後は、指導内容や進捗状況等についてフィードバックに努めるとともに、検証を含め評価を行うこと。

新カリキュラムに新たに加わった「地域・在宅看護論」において、学生が地域社会資源を学習するフィールドワークに対する協力が得られたことで、看護における「地域を知る」ための体制が整えられた。「地域連携」にも繋がる分野であることから、今後における協力体制の強化及び内容の充実を望みたい。

臨地実習については、一昨年度において謝金を見直し改善を図ったが、依然として受入施設からは改善要望が出されており、郡山医師会看護学校運営委員会との協議に基づき、今後も引き続き臨地実習体制の確保に向け検討するとともに、対策を講じること。

○ 卒業・国試資格試験対策については、教員及び依頼講師による試験対策並びに業者模試の活用等により、看護師国家試験の合格率は95%となり、全国の93.2%を上回った。合格率100%を目指し、指導に注力願いたい。

○ 学生生活支援（健康管理・相談、就職先評価、自主活動支援）については、個別面談やカウンセリング等により心身両面から学生を支える体制が整えられている。なお、求人のための来校者数が増え、就職先における評価は高いといえる。

また、コロナ禍で中止していた学校祭を、今年度においては「10周年特別講演会」として同窓会共催で実施し、既卒生の参加を促したことは、在校生と既卒生の交流の場づくりとなり、歴史ある本校における本来の学生支援に繋がるものとして評価する。

○ 教職員の育成については、コロナ禍において中止又はオンラインによる実施となっていたが、対面講習が再開されるなど開催側の状況に変化が見られるとともに、現場における業務も平常化されつつあることから、費用対効果を踏まえた上で、長期的視野に立った人材育成計画の立案及び実施を望む。